

# Center News

センターニュース  
July  
2008  
No.9

— 愛知大学三遠南信地域連携センター —  
文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業



## CONTENTS

- 巻頭言…1
- センター事業の取り組み状況…2
  - ・「三遠南信のすがた」サイトが公開
- センター・トピックス…3
  - ・内蒙古大学経済管理学院と学術交流協定を締結
  - ・県境を跨ぐ工地域づくり戦略プラン研究会・平成19度成果報告会を開催
  - ・国土形成計画市民講座がスタート
  - ・流域圏づくり公開研究会開催される
  - ・よがわ流域大学・流域圏講座修了生共同提案事業成果報告会行われる
  - ・東栄町と愛知大学との連携事業始まる

- 地域づくりサポーターの活動から…6
  - ・同窓会奨励賞授与式に参加して
  - ・2007年度 地域づくりサポーター報告会を終えて
  - ・「みんなでつくった文芸祭」
- 2007年度センター活動成果刊行物…7
  - 三遠南信地域連携ブックレット第3号  
「市民活動による森づくりの試み」を読んで…8
  - 三遠南信地域連携センター・センター会議委員…9
  - 三遠南信地域連携センター活動記録(2008.2~2008.5)…10
  - サポーター活動記録(2007.5~2008.5)…11

- 研修員紹介…12
- 編集後記…12

## ◆巻頭言◆

### 実践的な「知」の拠点化への期待



三遠南信地域の行政、経済界、大学研究機関、住民団体などが、約2年の歳月をかけて策定した「三遠南信地域連携ビジョン」を各地域各層への周知を図るため、去る5月12日に豊橋市公会堂で「三遠南信トップ対談」が開催され、浜松・飯田・豊橋の首長と商工会議所会頭が、ビジョンへの期待や県境連携の推進に向けた熱い思いを訴えました。

私も発言に加わらせていただき、グローバル化の進展により、世界経済と直結する地域経営に戦略性が必要で、一層の地域連携促進には、道路を中心とした社会インフラの充実が欠かせない点を強調して述べさせていただきました。

同ビジョンは、「250万流域都市圏の創造」をメインテーマに掲げ、歴史的、地理的一体性を軸に培われた連携の素地を、県境地域の多様な主体が、積極的に各種のプロジェクトを展開することで、広域経済文化圏の総合的活力に昇華させることを狙うものと考えます。

国土形成計画の策定や道州制の議論が進み、地域では大規模な市町村合併により、国や地方の枠組みが変貌を遂げようとしています。すでに、遠州地域では、大浜松市が誕生し、南信州地域では、広域連合が実績を挙げています。われわれの東三河

豊橋商工会議所 会頭 磯村 直英

地域では、市町村や経済界で組織する「東三河広域協議会」の場で、広域合併や道州制の研究が始まり、秋にまとまる中間報告に高い関心を持っております。

私自身、昨年11月に会頭職に就いて以来、広域連携の重要性について、機会ある毎に発言してまいりました。この4月からは、東三河の商工会議所・商工会が、広域的な諸課題について調査検討を行う「東三河産業政策調整会議」を設け、経済人が考える地域のあり方についてのアンケート調査を最初の取り組みとしています。

前述の「トップ対談」でコーディネーター役を果たされた、佐藤元彦三遠南信地域連携センター長が総括の一例として示唆されていた通り、ビジョンに示された幅広い多様な広域連携事業を推進するには、テーマや分野ごとに組織された必要最小限の主体群が立ち上がりしていくことがまず必要である点について思いを同じくしました。

「三遠南信地域連携センター」は、「地域づくり」の学術的研究機関であるとともに、他の大学や行政、企業、住民団体等を結びつける実践的な「知」の拠点としての役割を担う存在であります。三遠南信地域連携ビジョンに基づく広域連携プロジェクトの進展や新たな国土づくりの議論が進むなかで、県境連携に活力を見出そうとする地域全体の高い要請に応えられることをご期待いたしております。

# センター事業の取り組み状況

## 「三遠南信のすがた」サイトが公開

地域づくり情報システム整備事業では、主に(1)情報システムの構築・管理、(2)情報サービスの提供、(3)GISコンテンツ作成のサポートと(4)GISに関する基礎研究、4つの事業目標を掲げて、研究と開発を行っている。

本事業は2005年度に発足した。最初の2年間では、地域づくりWebGIS基盤システムを構築し、検証用GISコンテンツを用いて基幹システムの検証を行った。2007年度では、(1)基礎データの整備、(2)基礎GISコンテンツの整備、(3)GIS基礎研究の展開と(4)GIS人材育成、の4つの年間目標を掲げて、研究と活動を展開した。

Webサイト「三遠南信のすがた」は、こうした研究活動のまとめとして、2008年4月に立ち上がった。サイトは、(1)事業紹介、(2)GISでみた地域のすがた、(3)地域づくりデータベース、(4)地域GIS工房、の4つの部分により構成されている。

「事業紹介」ページでは、事業の目標、計画とその取り組みを紹介している。

「GISでみた三遠南信のすがた」ページでは、三遠南信地域を俯瞰できるWebGISマップを公開している。例えば、「三遠南信地域の資源マップ」は、2万5,000分1のマップを利用し、地域の資源を表現した。また、「三遠南信地域の集落マップ」は高精度の航空写真を使って2,500分1の集落マップに、地域アンケートの結果を表現する予定である。「東三河のすがた」は、センターで独自に調査した「東三河データブック」を空間的に解析し、地域経済データをGISマップで表現した作品である。



「三遠南信のすがた」サイト



「GISでみた三遠南信のすがた」ページ

事業責任者 蒋 涌

「地域づくりデータベース」ページでは、地域づくりデータベースプロジェクトの研究成果を公表している。「地域統計(1次データ)」では、地域研究や地域づくり活動に活用できる1次データを収集し、Web公開している。このデータベースシステムは、地域情報収集ツールとデータベースシステムの2つの部分により構成されている。本事業が独自に開発した地域情報収集ツールは、中山間地域でのデータ収集を想定し、軽量のノート型PCに、データ収集ツールとデータ転送ツールを備え、仮にインターネットの整備がなくても、本番のデータベースとの「データ同期」が取れる。一方、本番の

「地域統計データベース」には、自然、社会、経済、産業、文化・歴史の5つの分野において40項目を設け、それらを時間と地域情報(例えば、市町村合併情報



「地域統計データ」の検索とダウンロード画面

など)と関連付け、時空間型データベースを構築した。利用者は、時間、地域(行政区)と分野・項目の順で、データを検索し、Web経由でダウンロードできる。

また「地域づくりデータベース」ページでは、地域づくりGISコンテンツが提供されるデータベースである。ArcObjectレベルのコンテンツを共有することで、GISコンテンツの生産性を上げることが主な目標である。

最後に「地域GIS工房」ページを通じて、プロジェクトメンバーや、利用している基幹システムと研究活動などを紹介する。

「三遠南信のすがた」が地域づくりの現場で活用されることを期待しつつ、今後も完成した研究成果を順次公開し、地域の方々のご要望に応えるように推進していきたい。

# センター・トピックス

## 内蒙古大学経済管理学院と学術交流協定を締結

センターは去る4月7日付で、中国・内蒙古大学の経済管理学院と学術交流協定を締結した。中国の教育研究機関との締結は、貴州大学経済学院に次いで2例目となる。センターが文部科学省の私立大学学術研究高度推進事業として実施しているプロジェクトは4年目を迎えていたが、今年度から来年度にかけての重点は、三遠南信地域の固有性をベースにして開発された地域づくりトータルシステムをグローバルな視点から検証することに置かれている。今回の締結は、そのための東アジア学術交流ネットワークの構築に資するものである。

協定の内容は、刊行物、学術資料の交換や両機関の間での教員・学生の交流を主とするもので、貴州大学経済学院との間で締結したものと大きな違いはないが、持続可能な発展に資することを前文に明記したことが大きな特徴となっている。協定の発効に先立って3月末に内蒙古大学で行なわれた調印式(写真)では、楊 劍・同大学副学長や郭曉川・経済管理学院長をはじめとする関係者から歓待を受け、郭院長の歓迎の辞では、既に同様の協定が締結されているアリゾナ大学との連携をも視野に



入れつつ、内蒙古地域の持続可能な発展にとって実践的に意味のある共同研究、学術交流を推進したいとの意向が示された。センターでは、今年度中に開催を予定している地域づくりに関する国際シンポジウムに同大学の関係者を招聘する予定である。

## 県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会・平成19度成果報告会開催

2008年3月28日、ホテルアソシア豊橋において、平成19年度の研究会の成果報告会が開催された。この研究事業は、豊橋技術科学大学の技術システムの観点と愛知大学の人文科学的観点を融合し、地域の公共団体等の連携の下に地域の諸課題解決に向けた持続可能な「地域づくり戦略プラン」の導入手法を構築し、自立した地域づくりに不可欠な「人材育成・意識啓発アクションプログラム」の開発に取り組み、県境を跨ぐ三遠南信地域の地域づくりに貢献するとともに、産官学民が連携・協働で取り組む地域づくりモデルを構築することを目的として、2006年度に研究プロジェクトがスタートしている。

このうち地域づくり戦略プラン研究では、5部会が設置され本学は「ソーシャルキャピタル・社会力評価部会」部会長(経済学部・岩崎正弥教授)を担当している。人材育成・意識啓発アクションプログラム開発では、2部会があり本学は、「中山間地定住促進・地域再生部会」部会長(三遠南信地域連携センター・黍嶋久好上席研究員)を担当している。当日は、岩崎部会長から、ソーシャルキャピタルの分析概念と静岡県浜松市熊地区(旧天竜市熊)と愛知県田原市野田地区で実施した地域力の実態調査を踏まえて、地域力評価のガイドライン提示に向けての課題と方向性を示した。

黍嶋部会長からは、中山間地

域の定住促進と地域再生を担う人材育成のプログラム開発のための試行調査として、愛知県東栄町月地区と静岡県浜松市熊地区の集落で実施した「集落の地域力点検の準用モデル」から、集落構造と維持のための課題を示した。両部会の成果については、『県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン・平成19度研究成果報告書』として、公表されている。



## 国土形成計画市民講座がスタート

国土形成計画に対する一般市民の関心と理解を高めることを目的とした市民講座が、この6月13日に愛知大学車道校舎でスタートした。いわゆる全総（全国総合開発計画）に代わる国土形成計画は、昨年度に全国計画の素案がまとまり、それを受け、この間、各地域圏の広域地方計画の策定が進められてきている。そのプロセスは行政主導であり、一部で有識者会議等行政以外の関係者が意見を述べる場が設

けられているケースもあるが、一般市民の関心と理解の高まりはいま一つである。今回の講座は、今後の国土形成のあり方を基本的に示し、道州制への展望とも関わりのある同計画は、市民生活にも大きな影響を及ぼすとの認識から、市民の間での関心と理解を深める必要があるのではないかとの問題意識をもって、センターが機関参加している「地域交流連携連絡会」が主催した。



講座は今後5回開催される予定だが、全体のスケジュール等は以下の通りである（講師等の敬称は省略）。

**第1回 6月13日 「国土形成計画について」（講師：国土交通省中部地方整備局 石原 篤）**

**第2回 6月20日 「シームレスアジアと広域地方計画」  
(講師：愛知大学三遠南信地域連携センター 佐藤元彦)**

**第3回 6月27日 「中部圏の産業経済と国土形成計画」  
(講師：三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社 加藤義人)**

**第4回 6月11日 「国土形成計画と市民参加」(講師：(財)地域総合研究所 大澤泰一)**

**第5回 7月18日 「県境地域と広域地方計画」(講師：東三河地域研究センター 戸田敏行)**

**第6回 7月25日 パネルディスカッション「国土形成と新たな公」  
(コーディネーター：豊橋技術科学大学地域協働まちづくりリサーチセンター 大貝 彰)**

## 流域圏づくり公開研究会開催される

3月15日（土）午前中に流域圏づくりに関する公開研究会が開かれた。本年度の「とよがわ流域大学・流域圏講座実践コース」では愛知県以外の団体を招き、その活動から学ぶ内容であったため、県内の活動についても学ぶ機会を持つことにし、NPO法人矢作川と三河武士フォーラム理事長の鬼頭俊雄さんにお出でいただいた。鬼頭さんは、矢作川流域で水源桜まつり、水と舟遊び、凧作り・凧揚げ大会など多彩な活動を行っているが、活動の中心は竹炭と土着有用微

生物を使った水質浄化活動で、これまでのさまざまな取組みが報告された。また、鬼頭さんは地元の小学校・中学校の総合学習でも自然環境の浄化活動を展開されており、いくつかの事例が報告された。

鬼頭さんの基調報告に対して、お二方からコメントをいただいた。まず、太田稔愛知教育大学名誉教授からは、これからは世界的に水が必要とされる、日本では中水利用が求められるようになるが、そのためには水の浄化が必要になる、鬼頭さんの取組み

はそれに寄与するものである、とのコメントがあった。つづいて、市野和夫元愛知大学教授からは、竹炭は空隙が多く微生物を住まわせるには適当で、土着の微生物を使い、有機物を分解するというの仕組としてはいいものである、しかし有機物は炭素・水素・酸素・窒素・リン・硫黄の6つに分解され、このうち窒素・リン・硫黄が三河湾に沈殿し、ヘドロ化することに留意すべきであろう、つまり「水循環→物質循環」にまで目配りした活動が必要である、とのコメントがあった。

## とよがわ流域大学・流域圏講座修了生共同提案事業成果報告会行われる

2006年度につづき2007年  
度も2グループの共同提案事業  
が取り組まれ、3月15日(土)午後  
にその成果報告会が開かれた。

一つは、「人と人とが寄り添う  
集落づくり－曾孫への伝言“戦  
後の七郷一色”－」で、森長代表  
をはじめ、グループのメンバー3  
名のほか昨年の田原市西馬草集  
落の方も毎回参加され、新城市  
七郷一色地区の老人クラブの方々  
から5回にわたって聞き取り調  
査を行い、その内容を取りまとめ、  
報告された。昨年の海辺の農村

地域の暮らしぶりに対して、本  
年は山村の暮らしぶり、生活の  
変化につき明らかにされた。

もう一つは、「清流日本一の  
豊川流域圏づくり立案調査」で、  
山内代表をはじめ、過去2年の  
講座修了生11名が上下流住民の  
アンケート調査を行ったもの。  
2006年度の上流域1,500名  
に対して、2007年度は下流域  
7,000名からアンケートを回収し、  
集計・分析した結果が報告さ  
れた。流域圏づくり、流域一体化  
の課題と方向性が明らかにさ



れ、行政、住民の活力ある取組み  
を呼びかけていた。

それぞれのグループの成果  
報告は、2006年度と2007年度  
の2カ年分を報告書に取りまと  
められる。

## 東栄町と愛知大学との連携事業始まる

昨年6月に東栄町と愛知大学  
の間で締結した連携・協力協定  
に基づき、2008年度の連携事  
業をスタートさせた。まず、第1弾  
として東栄町役場職員研修受入  
れ事業であり、東栄町企画課から  
澤田貴行さんを当センター研修  
員として受け入れ、2009年3月  
まで業務を行うことになる(本号  
12ページの研修員紹介を参照)。

2つ目として東栄町からの調  
査委託を受けて行う『元気なま  
ちづくり事業調査』を当センター  
が担当し、東薦目地区を対象とし  
た「地域力・地域資源」調査を8  
月より現地調査を予定している。

昨年度からの継続事業として、  
『元気な地域づくり支援事業』を  
実施し、本学の教員を地域づくり  
アドバイザーとして東栄町の各  
地区、学校等に派遣を行う。

東栄町では事業を推進するた  
めに役場内に委員会を設置し、  
その委員会の専門委員として、  
本学教職員が委員に就任してい  
る。主なものは、『健康づくり大  
学事業』『内閣府・地方の元気再  
生事業』である。

以上とは別に、本学の教職課  
程委員会が窓口となり、8月4日  
～8日、18日～22日の2期にわ  
たり開催される東栄町内の小学

生を対象とした『サマースクー  
ル』に協力し、この指導には教  
職課程の履修学生と教員が担  
当する。

なお、愛知大学と東栄町でホ  
ームページを相互リンクしてお  
り、広報誌とあわせて情報交換・  
提供を図っている。

また、こうした連携事業を円滑  
に進めるために「地域連絡協議  
会」を設置しており、会長には東  
栄町副町長、副会長には愛知大  
学教学担当副学長があたってい  
る。

### 2008年度 三遠南信コミュニティカレッジ 「三遠南信・鉄道の未来を考える」(仮称)開催について

今秋より「鉄道」をキーワードに三遠南信地域の地域づくりを考える講座を全7回開催いたします。  
詳細が決定次第、ホームページ等でお知らせいたします。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

日 時	10月下旬～12月上旬までの土曜日13:30～15:30(予定)
テ マ	新幹線、飯田線、路面電車、LRT、第3セクター鉄道など予定
場 所	愛知大学豊橋校舎
受講料	無料
定 員	40名程度(事前申込制)

# 地域づくりサポーターの活動から

## 同窓会奨励賞授与式に参加して

大学院経済学研究科 修士課程1年 村田 裕志

地域づくりサポーター制度ができて今年で3年目となる。地域づくりサポーターが行った代表的な事業として「売木村事業」や「駄菓子屋“だがしろう”事業」、「学生まちづくりサミット2007 in 豊橋」などがあり、これらの諸活動が評価され、同窓会奨励賞の受賞が決まった。そして2008年3月1日(土)に車道キャンパスで開催された2007年度愛知大学後援会課外奨励賞・同窓会奨励賞授与式にて地域づくりサポーター代表として表彰を受けた。

私たちが、同窓会奨励賞を受賞することができたのは、過去にサポーター活動を行ってきた先輩たちの努力の積み重ねや、私たちの活動に理解を示してくだ

さり、アンケート調査や聞き取り調査などを引き受けてくださった地域の方々の存在があったからであろう。

しかし、私たちが地域で活動を行う中には、地域づくりに関する知識不足により地域の人々とうまくコミュニケーションをとれなかつたことや、地域の人々とワークショップを行う時、その場をまとめることができなかつたという苦い経験もあった。そこで、このような反省から4年目となる今年度から、各サポーターたちは地域づくりに関する勉強会を自主的にひらいており、ワークショップを行う際のファシリティターを養成する勉強会なども自主的に開く予定である。

地域づくりサポーターたちは

同窓会奨励賞を受賞したこと、地域に対する問題、関心意識が強くなったと思われる。特に自主的な勉強会などが開かれるのはその



意識の表れだろう。私自身、今後も地域づくりサポーターとして地域の問題に関心を持ち続けながらサポーター活動をしていきたいと思う。それにはやはり、地元の人たちの交流が必要である。この部分だけは「地域づくりの為の勉強会」を開いたとしても学ぶことはできない。何度も地域に足を運び、地元の人たちと話をし、信頼を掴んだ時こそ本当の地域がみえる。そこから、地域の問題がわかり、私たちの地域づくりは始まるのだろう。



## 2007年度 地域づくりサポーター報告会を終えて

2008年2月23日土曜日に地域づくりサポーター活動報告会にて個人発表や事業報告が行われ、それらに関して活発な意見交換が行われた。まず、個人発表は、卒論テーマで「地域づくり」や地域に深く関わる「社会問題」を取り上げた学生サポーター3名からの発表であった。発表タイトルは団塊世代の一斉退職といった時事問題にあわせた「定年退職後のライフスタイル」、

最近よく話題にのぼる少子化にあわせた「男女の結婚観からみる少子化」、私自身も体験者であるが地域づくりインターんとそれに関わる各自治体、関係機関について詳しく調べられた「地域づくりインターん事業からみる受け入れ市町村の特徴」であった。

つづいて事業報告では、2007年8月に本大学、豊橋創造大学、豊橋技術科学大学の3大学で主

経済学部4年 木全 雅裕

催した「全国学生まちづくりサミット」、豊橋市の多文化共生に関する問題をテーマとした「アフタースクール事業」、3年間継続して取り組んだ「長野県売木村事



業」の3事業の活動報告が行われた。

個人発表、事業報告を通して感じたことはどの発表もわかりやすくまとめられており、今後のセンター活動に活かしていくことのできる点や課題がどこにあるのかを感じることができた

ことである。各事業間で活動の方法や連携などお互いに学ぶべきことが多くみられた。

またOBの参加や、他大学の学生の参加などもあり、例年ない顔ぶれとなった。さまざまな声を聞くことができ、いつもとは違った視点から助言などを頂くこと

ができ、大変参考となった。先にも述べたが、それまでの良い点は更に良くしていき、悪い点は見直しをしていきたい。最後になつたが、それらを考慮した上で「改善」に終わりないと感じた。

## 「みんなでつくった文芸祭」

私たちは2008年2月24日(日)に『売木村文化交流センターふなの木』で行われた第26回売木村文芸祭に参加した。当日は、展示部として私たちは「フリーマーケット」を出店した。そこで私たちはお店を運営するだけでなく、売木村住民との交流を意識した活動を行った。特に、私たちは売木村の学生と交流し、現在の売木村についてどう思うかなどを話し合った。そして売上金の全額を売木村社会福祉協議会に寄付し

た。また、芸能発表部においては私たちがオリジナルで創作した「はざかけ体操」を参加者の前で披露した。参加者全員と一緒に体操をしたので、売木村の方と一緒に感を味わうことができた。

そして、文芸祭の終了後は売木村の村長を交えて、新米祭で行ったアンケートの集計結果の報告と今後の活動計画について議論した。

そこでは『有限会社ネットワークうるぎ』の方も参加していた

経済学部4年 村上 貴裕

だき、来年度に向けて三者の意思を確認した。今回の文芸祭での経験をもとに、来年度以降の活動につなげていこうと思う。



## 2007年度センター活動成果刊行物

### 《一覧》

- 『流域社会の近代化過程に関する総合的研究(2005~06年度プロジェクト研究)』2007年4月刊
- 『東三河データブック調査・分析等業務報告書(平成19年度版)』2007年10月刊  
※東三河広域協議会からの受託事業報告書
- 『東三河地域を中心とする手筒花火の基礎調査報告書』2007年12月刊  
※東三河広域観光協議会からの受託事業報告書
- 『豊橋市大学連携調査研究費補助金成果報告書』2008年3月刊
- 『市民活動による森づくりの試み』  
(原田敏之・森田実、三遠南信地域連携ブックレットNo.3) 2008年3月刊
- 『とよがわ流域大学・流域圏講座 成果報告書』2008年3月刊  
※愛知県、国土交通省豊橋河川事務所、東三河地域研究センターとの連携事業報告書
- 『三遠南信「みち」の魅力を考える』2008年3月刊  
※三遠南信コミュニティカレッジ 成果報告書
- 『全国学生まちづくりサミット2007 in 豊橋 成果報告書』2008年3月刊
- 『地域づくりセンター活動報告書』第4号(売木村プロジェクト活動報告) 2008年3月刊



# ◆◆◆ 三遠南信地域連携ブックレット第3号「市民活動による森づくりの試み」を読んで ◆◆◆

愛知県森林組合連合会 会長 村松 幹彦

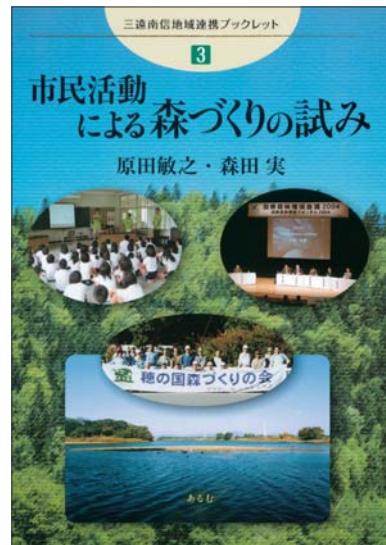
昭和30年代、段階的に木材が自由化されると、昭和30年の木材自給率は95%だったのが、昭和40年には72%、昭和45年には45%、平成15年には何と18%となり、国産材の需要が減少するにつれ材価は、昭和55年をピークに下降し続けました。林家の約80%は5ha未満の小規模で、子供や孫が結婚する時や、上の学校を出す時に、家に何か事があった時に足しになればとの思いから、懸命に山林の手入れをしてきましたが、最早あてにならないと知ると、やがて山から人の姿が消えてしまいました。こうなりますと外からは緑豊に見える山も、中に入りますと草や木は生えておらず、もちろん昆虫や微生物の住める状態ではありません。これでは山に保水力が乏しく、少し雨が降らなければ渇水で下流域では節水制限となり、少し多めの雨が降れば洪水を起こすだけでなく、雨に含まれている有害物質がそのまま川から海まで行きますから、沿線の田畠にとっても海にとってもいいわけありません。上流域と下流域は一体のものであり、そのことに気がついた下流域の人たちがボランティアとして森林整備に乗りだしてくれるようになり、その中心的役割を果たしてくれたのが

「穂の国森づくりの会」でした。

原田敏之氏・森田 実氏による『市民活動による森づくりの試み』を読ませていただき、1997年の発足を知りました。私が津具森林組合長に就任した2001年6月直後に、穂の国、NPO、森林ボランティアという言葉を初めて耳にし、私との関わりが始まりました。その後の津具地内の活動を通じて多くのボランティアの人たちを知ることにより、四季を通じての交流を深めるまでに発展しています。そこで思うことは、ボランティアの人たちは、長い時間の作業や高度の技術による効果を決して考える必要はないと思います。それよりも一人でも多くの人たちに参加していただくことが大切で、山仕事の「きつい」、「汚い」、「危険」を体験していただき、下流域へミネラルを含んだ水を安定的に供給するために、森林整備がいかに大切なことを知っていただければ充分です。少しだけ作業をして、あとは散策でもして森林の新たな発見をしていただくのと、山村の人たちとの交流も深めていただきたいと思いますし、帰宅時に「ああ疲れた」ではなくて、「ああ楽しかった」と言っていただければと思います。

小中学生を対象にした野外体験学習ですが、特に間伐体験だけは避ける傾向にあります。それは危険を伴うからですが、全く可笑しく思います。危険だからやらせないのでなく、危険だから教える必要があると思います。計画的に植林、下刈り、間伐、枝打ち全てを体験させたいのです。

「穂の国森づくりの会」が発足して11年、その中で私が関わったのが8年、これまでの知恵を出し、工夫をし、さまざまな提案をし、正に生きた活動に対しまして敬意を表すると共に、今後も森林組合が少しでも役に立てれば幸いです。



A5判 60ページ  
定価800円  
2008年3月発行  
あるむ  
ISBN978-4-86333-001-6

# ◆◆◆ 三遠南信地域連携センター・センター会議委員 ◆◆◆

2008年3月31日付でセンター長をはじめとするセンター会議委員の任期が満了となり、このたび以下のように改選がなされました。

(任期:2008年4月1日～2010年3月31日)

		氏 名	所 属 等	選 任 区 分	備 考
1	センター長	佐 藤 元 彦	経済学部教授		再任
2	委員(学内)	蒋 湧	経済学部教授	事業責任者 (地域づくり情報システム整備)	再任
3		黍 嶋 久 好	上席研究員	事業責任者 (地域づくり一タールシステム)	再任
4		岸 本 恵次郎	事務職員(主幹)	事業責任者 (教育・人材育成)	再任
5		山 田 邦 明	文学部教授 (大学評議会委員より選出)		新任
6		樋 口 義 治	文学部教授 (中部地方産業研究所にて選出)		再任
7		武 田 圭 太	文学部教授 (総合郷土研究所にて選出)		新任
8		鷺 坂 浩 孝	愛知県豊橋市企画課長	行政関係	再任
9	委員(学外)	村 田 克 弘	静岡県浜松市企画部次長兼企画課長	行政関係	再任
10		小 林 正 春	長野県飯田市企画課長	行政関係	再任
11		木 下 美 徳	長野県泰阜村総務課長	行政関係	新任
12		中 野 平八郎	愛知県東栄町企画課長	行政関係	新任
13		鈴 木 拓 也	豊橋商工会議所 事務局次長	商工関係	新任
14		村 松 幹 彦	愛知県森林組合連合会 代表理事会長 (津具森林組合長)	農林関係	新任
15		杉 浦 文 夫	豊橋市政記者クラブ幹事 (東愛知新聞社編集局次長)	マスコミ関係	再任
16		吉 井 弘 和	社団法人農山漁村文化協会東海支部長	マスコミ関係	再任
17		栗 林 茂	中日新聞豊橋総局長	マスコミ関係	再任
18		三 宅 淳 子	NPO法人三遠南信アミ理事	NPO関係	新任
19		森 田 実	NPO法人穂の国森づくりの会事務局長	NPO関係	新任
20		大 森 啓 充	三遠南信教育サミット事務局 (豊橋市教育委員会総務課長)	教育機関	新任
21		池 田 豊 人	国土交通省大臣官房技術調査課技術企画官	公的機関	再任
22		高 井 克 明	国際連合地域開発センター研修部長	公的機関	再任
23		金 予 鴻 一	東三河地域研究センター常務理事	研究機関	再任
24	幹 事	古 河 邦 夫	豊橋研究支援課長		新任

# 三遠南信地域連携センター活動記録(2008.2~2008.5)

月	日	曜日	研究室・委員会等名	会 場	出席者・概要
2月	5日	(火)	愛知県東三河広域観光協議会からの受託事業(東三河地域を中心とする手筒花火の基礎調査)公開シンポジウム「東三河の手筒花火と広域的観光」	豊橋商工会議所 9階ホール	受託研究成果発表 テーマ:「東三河地域を中心とする手筒花火の基礎調査」渡辺和敏 パネリスト:東田昭夫(東三河広域観光協議会事業ワーキングリーダー)、 藤田佳久、印南敏秀、黍嶋 総合司会:岸本
	7日	(木)	地域づくりサポーター自主研究発表会 豊川稻荷門前のまちづくりの現状調査報告	「いっぷく亭」 (豊川市)	岩崎、黍嶋 地域づくりサポーター(草田、鈴木、高木)
	14日	(木)	運営委員会(07-20)	豊橋校舎 本館第3会議室 名古屋校舎 研究館第1会議室	テレビ会議にて
	16日	(土)	とよがわ流域大学・流域圏講座 公開成果報告会「豊川流域圏づくりの展望」 —私たちが考える「豊川流域圏づくり」プラン—	記念会館3階 小講堂	○報告 環境保全・地域通貨グループ 『豊川流域圏通貨「まい」を呼び水にした環境保全活動』 報告者:野田賢司・小林芳樹・大谷至弘 ○報告 水循環・上下流交流グループ 『清流とよがわの恩恵を流域全体で享受するために』 報告者:鵜飼一之 ○報告 広域観光・歴史文化グループ 『観たい知りたい光り輝く豊川流域』 報告者:中村秀夫 コメントーター:早川 勝(豊橋市長)、穂積亮次(新城市長)、 三宅淳子(NPO法人三遠南信アミ理事長)、森田 実(NPO法人 穂の国森づくりの会事務局長)、藤田佳久(文学部教授) コーディネーター:佐藤センター長 総合司会:岸本
	19日	(火)	豊橋市大学連携調査研究費補助金成果報告会 —3大学学生の地域づくり調査研究活動の推進—	豊橋市役所 東122会議室	開会挨拶:佐藤センター長 成果報告: ・「地域づくりを多文化共生の視点から 一外国籍児童アフタースクール事業を通じて」<愛知大学> 発表者:地域づくりサポーター(加藤+) ・「二川地区における防災マップづくりを通じてのまちづくり活動」<豊橋技術科学大学> ・「商店街における学生活動のあり方についての調査活動 ~チャレンジショップの新たな活動に向けて~」<豊橋創造大学> コメントーター:松浦元彦(内閣官房地域活性化統合事務局 参事官補佐)、豊橋市関係課 閉会挨拶:伊藤晴康(豊橋創造大学副学長・事務局長) 参加者:岸本、黍嶋、平川、加治、地域づくりサポーター(村上、高橋、 鶴田、彦坂)
	23日	(土)	サポーター報告会	研究館1階 第1・2会議室	
	24日	(日)	壳木村文芸祭	壳木村文化交流 センター「ぶなの木」	黍嶋、地域づくりサポーター(村上、木全、宮本、村田、堀田、加藤+、 青木、鈴木、草田、彦坂、高木)
	27日	(水)	運営委員会(07-21)	センター事務室	
	28日	(木)	「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」第2回公開 シンポジウム 「持続可能社会を見据えた越境連携の意義と展望」	アクティシティ浜松 41会議室	コーディネーター:佐藤センター長 参加者:黍嶋、岸本、平川、加治、佐藤正之(豊橋技術科学大学CCR 「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会)非常勤研究員 地域づくりサポーター(木全、加藤+)
3月	1日	(土)	愛知大学同窓会奨励賞授与式	車道校舎 コンベンションホール	サポーター代表で地域づくりサポーター村田が学長より授与 岩崎、地域づくりサポーター(村上、村田、宮本、彦坂)
			宮川プロジェクト活動報告会2007	ハートプラザみその (三重県伊勢市)	参加者:とよがわ流域大学受講生14名 引率者:岸本、平川、加治
	7日	(金)	東栄町・第2回「地域づくり講演会」	東栄町グリーンハウス 2階研修室	講師:佐藤センター長 「限界集落」の現状と今後 黍嶋、暁が参加
	8日	(土)	豊川・渥美・前芝フォーラム プレアクションイベント	前芝海岸	平川、地域づくりサポーター(加藤+、村田、木全)が参加
	13日	(木)	運営委員会(07-22)	センター事務室	
	15日	(土)	公開研究会	研究館1階 第1・第2会議室	テーマ:「矢作川と三河武士フォーラムの活動と流域圏づくり」 講師:鬼頭俊雄(特定非営利活動法人矢作川と三河武士フォーラム 理事長) コメントーター:市野和夫(元愛知大学教授)、太田 稔(愛知教育大学名誉教授)
			とよがわ流域大学・流域圏講座修了生 グループ共同提案事業成果報告会公開研究会	研究館1階 第1・第2会議室	発表テーマ:「人と人が寄り添う集落づくり -曾孫への伝言“戦後の 七郷一色”-」 森長千臣(代表)・加藤正敏・山本春美・山田正俊 「清流日本一の豊川流域圏づくり立案調査」 山内規雄(代表)・算和美・水野万里子・佐藤光頼・大野浩司・藤原 希望・山本亘彦・山本圭子・村澤勇一・高木松生・小川昭
	16日	(日)	三遠南信発見・交流フォーラムin南信州 ～再発見からはじまる、協働の地域づくり～	昼神温泉観光センター センター前朝市広場	佐藤センター長、平川、地域づくりサポーター(加藤+、村田、村上、 木全)が参加
	20日	(木)	愛知県交流居住研究会	新城市民文化会館	コーディネーター:佐藤センター長 黍嶋、平川が参加
	28日	(金)	「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」第2回研究成果報告会	ホテルアソシア豊橋 5階 ザ・パティオ	部会成果報告:ソーシャルキャピタル・社会力評価部会 岩崎部会長が報告 人材育成・意識啓発アクションプログラム開発部会(中山間地部門)黍嶋部会長が報告 閉会挨拶:岩崎
	31日	(月)	2007年度第3回三遠南信地域連携センター会議	研究館1階 第1・2会議室	
4月	14日	(月)	運営委員会(08-1) 愛知県交流居住センター設立準備会	センター事務室 愛知県西庁舎2階 第11会議室	佐藤センター長代理で黍嶋出席
	22日	(火)	愛知県交流居住センター設立総会	アイリス愛知2階 サフラン2会議室	佐藤センター長(発起人代表)が発起人代表挨拶 黍嶋が出席
5月	2日	(金)	運営委員会(08-2)	センター事務室	
	13日	(火)	三遠南信地域連携ビジョントップ対談「三遠南信250万流域 都市圏の創造」	豊橋市公会堂	豊橋、浜松、飯田の3市長、商工会議所会頭によるディスカッション コーディネーター:佐藤センター長 出席者:黍嶋、岸本、平川、加治
	17日	(木)	豊川・渥美・前芝フォーラム エコ&山・川・海の交流アクション・ イベント 2008. Part II	前芝海岸	平川、地域づくりサポーター(木全・村田)
	21日	(水)	運営委員会(08-3)	センター事務室	
	27日	(火)	平成20年度「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン研究会」 講演会・総会	ホテルアソシア 豊橋5階	佐藤センター長、岩崎、黍嶋、古河、加治、佐藤正之(豊橋技術科学大学 CCR「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」研究会)非常勤研究員

# サポーター活動記録(2007.5~2008.5)

2007年度

日付	活動内容
5月16日(水)	第1回サポーター一定例会議
5月18日(金)	壳木村事業(田植え作業) 岸本、黍嶋 サポーター(片野、村田、山口久、村上、堀田、彦坂)
5月19日(土)	壳木村事業(畑作業) 岸本、黍嶋 サポーター(片野、村田、山口久、村上、堀田、彦坂)
5月30日(水)	壳木村事業打ち合わせ 片野、村田、宮本、山口久、村上、堀田、彦坂
6月 1日(金)	壳木村事業打ち合わせ 片野、村田、宮本、山口久、村上、堀田、彦坂
6月 4日(水)	第2回サポーター一定例会議(臨時)
6月18日(月)	壳木村事業打ち合わせ 片野、村田、宮本、山口久、村上、堀田、彦坂
6月25日(月)	壳木村事業打ち合わせ 片野、村田、宮本、山口久、村上、堀田、彦坂
7月 9日(月)	壳木村事業打ち合わせ 片野、村田、宮本、山口久、村上、堀田、彦坂
7月11日(水)	アフタースクール事業打ち合わせ
7月16日(月)	壳木村事業(草取り作業) 岸本、黍嶋 サポーター(片野、村田、山口久、村上、堀田、彦坂)
7月18日(水)	アフタースクール事業打ち合わせ
7月23日(月)	アフタースクール事業打ち合わせ
7月23日(月)	学習支援 辻(汐田小)
7月24日(火)	学習支援 辻(汐田小)
7月25日(水)	学習支援 辻(汐田小)・鶴田(岩田小)
7月26日(木)	学習支援 辻(汐田小)
7月26日(木)	学習支援 鶴田(岩田小)
7月27日(金)	第3回サポーター一定例会議
7月27日(金)	学習支援 鶴田(岩田小)・加藤千、高橋、彦坂(岩西小)
7月30日(月)	学習支援(岩西小) 加藤千、彦坂
7月31日(火)	学習支援 辻(汐田小)・加藤千、高橋、彦坂(岩西小)・ 鶴田(岩田小)・原田、鈴木沙、有田(多米小)
8月 2日(木)	学習支援 鶴田(岩田小)
8月 3日(金)	学習支援 辻(汐田小)・鶴田(岩田小)・原田、有田(多米小)
8月 7日(火)	学習支援 原田、鈴木沙、有田(多米小)
8月 9日(木)	アフタースクール事業打ち合わせ
8月10日(金)	学習支援 原田、鈴木沙(多米小)
8月21日(火)	学習支援 鈴木沙、有田(多米小)
8月23日(木)	聞き取り調査(豊橋市役所) 加藤千、辻、高橋、彦坂、鈴木沙
8月24日(金)	学習支援 加藤千、村上、彦坂(岩西小)・原田、鈴木沙、有田(多米小)
8月27日(月)	聞き取り調査(湖西市役所) 加藤千、鶴田、辻、彦坂、鈴木沙、有田、平川
8月28日(火)	学習支援 加藤千、高橋、彦坂(岩西小)・ 鶴田(岩田小)・堀田、原田、鈴木沙、有田(多米小)
8月29日(水)	学習支援 加藤千、高橋、彦坂(岩西小)・鶴田(岩田小)
8月30日(木)	学習支援 加藤千、高橋、彦坂(岩西小)・鶴田(岩田小)
8月31日(金)	聞き取り調査(浜松市役所) 加藤千、辻、彦坂、高橋
9月 3日(月)	アフタースクール事業打ち合わせ
9月 6日(木)	全国まちづくりサミット2007 in 豊橋

日付	活動内容
9月26日(水)	第4回サポーター一定例会議 片野、村田、宮本、山口久、村上、堀田、彦坂
10月 3日(水)	壳木村事業打ち合わせ 片野、村田、宮本、山口久、木全、村上、堀田、彦坂
10月11日(木)	アフタースクール事業打ち合わせ
10月13日(土)	壳木村事業(稻刈り作業) 岸本、黍嶋 サポーター(片野、村田、宮本、鳥村、山口久、木全、村上、 堀田、彦坂、伊藤)
10月14日(日)	壳木村事業(壳木村見学) 岸本、黍嶋 サポーター(片野、村田、宮本、鳥村、山口久、木全、村上、 堀田、彦坂、伊藤)
10月22日(月)	アフタースクール事業打ち合わせ
10月24日(水)	壳木村事業打ち合わせ 片野、村田、宮本、山口久、木全、村上、堀田、彦坂
10月25日(木)	聞き取り調査(浜松市役所) 加藤千、辻、村上、彦坂
11月 4日(日)	壳木村事業(新米祭) 岸本、黍嶋 サポーター(片野、村田、宮本、鳥村、張、任、山口久、木全、 村上、堀田、彦坂)
11月 5日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、彦坂
11月12日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、彦坂
11月19日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、彦坂
11月26日(月)	聞き取り調査(太田市役所) 加藤千、高橋、村上、彦坂
11月26日(月)	学習支援(×小学校) 鶴田、辻
12月 3日(月)	壳木村事業打ち合わせ 村田、宮本、村上、堀田、彦坂、伊藤、市川、清水
12月 3日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、彦坂
12月 5日(水)	壳木村事業打ち合わせ 村田、宮本、鳥村、木全、村上、堀田、彦坂
12月17日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、彦坂
12月21日(金)	第5回サポーター一定例会議 片野、村田、宮本、鳥村、木全、村上、堀田、彦坂、伊藤
1月14日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、彦坂
1月21日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、彦坂
1月22日(火)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、彦坂
1月24日(木)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、辻、彦坂
1月28日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、辻、彦坂
1月28日(月)	アフタースクール事業打ち合わせ
1月29日(火)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田
1月31日(木)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田
2月 4日(月)	学習支援(×小学校) 辻、鈴木夏
2月 5日(火)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田
2月 7日(木)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田
2月 7日(木)	アフタースクール事業打ち合わせ
2月12日(火)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、彦坂
2月14日(木)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田
2月18日(月)	学習支援(×小学校) 鶴田、彦坂、高橋
2月19日(火)	学習支援(×小学校) 鶴田、彦坂
2月19日(火)	豊橋市大学連携調査研究費補助金成果報告会(豊橋市役所) 佐藤センター長、岸本、黍嶋、平川、加治 サポーター(加藤千(発表)、鶴田、高橋、彦坂)
2月21日(木)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、鈴木夏、彦坂
2月22日(金)	アフタースクール事業打ち合わせ
2月23日(土)	2007年度地域づくりサポーター活動報告会 加藤千、辻、加藤沙、青木、村田、宮本、木全、村上、堀田、彦坂、鈴木夏、草田
2月24日(日)	壳木村事業(文芸祭) 黍嶋 サポーター(加藤千、青木、村田、宮本、木全、村上、堀田、彦坂、鈴木夏、草田、高木)

日付	活動内容
2月25日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、辻
2月26日(火)	学習支援(×小学校) 加藤千、辻
2月28日(木)	学習支援(×小学校) 鈴木夏、彦坂
2月29日(金)	壳木村事業打ち合わせ 村田、宮本、加藤沙、村上、彦坂、鈴木、草田、高木、吉川
3月 3日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、辻
3月 4日(火)	アフタースクール事業打ち合わせ
3月 4日(火)	学習支援(×小学校) 鶴田、彦坂
3月 6日(木)	学習支援(×小学校) 加藤千、辻、鈴木夏、村上
3月 6日(木)	アフタースクール事業打ち合わせ
3月10日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、彦坂
3月11日(火)	学習支援(×小学校) 加藤千、彦坂
3月13日(木)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田、辻、彦坂
3月17日(月)	学習支援(×小学校) 加藤千、鶴田



サポーター定期会議の様子

## 2008年度

日付	活動内容
4月16日(月)	第1回サポーター定期例会議 黍嶋、岸本、蒋、澤田、サポーター(木全、堀田、吉川、村田、高木、鈴木夏、草田、山下、大橋、村上)
4月25日(金)	GIS第1回勉強会 陶、村田
5月 2日(金)	GIS第2回勉強会 陶、村田、草田
5月 7日(水)	第1回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村上、木全、鈴木夏、高木、張、大橋、村田)
5月 9日(金)	GIS第3回勉強会 陶、村田、草田、山下
5月14日(水)	GIS第4回勉強会 蒋、サポーター(陶、村田、草田、山下)
5月16日(金)	第2回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村田、木全、村上、大橋、鈴木夏、高木)
5月21日(水)	GIS第5回勉強会 蒋、サポーター(陶、村田、木全、草田、山下)
5月23日(金)	第3回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(木全、村上、村田、吉川、張、鈴木夏、高木、大橋)
5月26日(月)	第2回サポーター定期例会議 黍嶋、岸本、蒋、澤田、加治、サポーター(木全、吉川、村田、高木、鈴木夏、草田、山下、ファン、大橋、鈴木駿、村上)
5月28日(水)	GIS第6回勉強会 蒋、サポーター(陶、村田、木全、草田、山下)
5月30日(金)	第4回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村田、木全、村上、吉川、張、ファン、鈴木夏、大橋、高木)

## 研修員紹介



このたび、東栄町役場から実務研修生として愛知大学三遠南信地域連携センターでお世話になることとなりました澤田貴行と申します。この研修は、昨年6月に東栄町と愛知大学とで締結した東栄町の地域づくりに関して、連携と協力をしていくための協定に基づくもので、研修生をはじめ、地域づくりアドバイザーの派遣、集落調査、教育インターンや各種プロジェクト等への助言・指導等もいただくこととなっており、東栄町では大きな期待をしているところです。

一年間という短い研修期間でありますか、自治体職員として微力ながら三遠南信地域連携センターの皆様への刺激となれるようお手伝いできればと思っております。皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 編集後記

ミャンマーサイクロン、中国四川大地震と大規模災害が続き、多くの被災者がでただけでなく、いまも行方不明者が多数存在する。そうしたなか日本でもM7.2の岩手・宮城内陸地震が発生した。6月18日現在なくなられた方11人、行方不明11人という。被災された地域の方々、また被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興を祈りたい。中国の被災状況などをみると、学校施設の耐震、防災意識の育成など平時の対策がいかに大切なことが痛感される。大学においても、あらゆる分野・部署において危機管理体制と意識の構築が求められる。

表紙写真：豊川・海倉淵（野田賢司撮影）

## 編集・発行

愛知大学 三遠南信地域連携センター運営委員会  
〒441-8522 愛知県豊橋市町畠町1-1

Tel : (0532)47-4157 Fax : (0532)47-4576

URL : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/sen-center/>

Email : [sen-center@ml.aichi-u.ac.jp](mailto:sen-center@ml.aichi-u.ac.jp)

発行日 : 2008年7月1日